

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 4 月 30 日 (2021.4.30)

【公開番号】特開 2020-68315 (P2020-68315A)

【公開日】令和 2 年 4 月 30 日 (2020.4.30)

【年通号数】公開・登録公報 2020-017

【出願番号】特願 2018-200775 (P2018-200775)

【国際特許分類】

H 0 1 F 37/00 (2006.01)

H 0 1 F 27/24 (2006.01)

【F I】

H 0 1 F 37/00 A

H 0 1 F 37/00 M

H 0 1 F 27/24 K

H 0 1 F 27/24 J

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 11 日 (2021.3.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記第一内側コア部及び前記第二内側コア部の比透磁率は、5 以上 50 以下で、

前記第一外側コア部及び前記第二外側コア部の比透磁率は、前記第一内側コア部及び前記第二内側コア部の比透磁率よりも高い請求項 1 から請求項 6 のいずれか 1 項に記載のリアクトル。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

外方突出部を備えるリアクトルは、外方突出部の端面を基準にして設置対象に設置することで、外部機器と接続し易くなる。外方突出部の端面は外側樹脂部から露出しているので、外方突出部の端面から巻線端部までの距離が精度良く決まる。外側樹脂部の成形時の厚みのバラツキが、上記距離の精度を低下させることが無いからである。そのため、外方突出部の端面を基準にしてリアクトルを設置対象の所定位置に設置すれば、設置対象における所望の位置にリアクトルの巻線端部を精度良く配置できる。その結果、設置対象に設けられた外部機器と、リアクトルの巻線端部とを接続し易くなる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

< 7 > 実施形態に係るリアクトルの一形態として、

前記第一内側コア部及び前記第二内側コア部の比透磁率は、5 以上 50 以下で、

前記第一外側コア部及び前記第二外側コア部の比透磁率は、前記第一内側コア部及び前記第二内側コア部の比透磁率よりも高い形態を挙げることができる。